



地域の環境活動の充実を目指す

統括広報委員視察研修

各地区の区長さんで構成する統括広報委員会は、環境問題をテーマとして4月15日～16日、大分県大分市を訪問し、視察研修を行いました。

この研修は毎年実施しているもので、今回は、資源循環型社会を推進している大分市を研修先としました。研修では、大分市福宗環境センターリサイクルプラザを見学しました。先進的な取り組みを直接担当者から聞け、資源の大切さや環境問題を身近に感じる良い研修となりました。



1



3



2



4

1 福宗環境センター阿部所長による施設の概要説明

2 エコライフプラザの展示・学習コーナーで、自転車や家具の再生を見学。終了後は熱心な質問が飛び交う

3 環境センターの説明を真剣に聞く統括広報委員の皆さん

4 福宗清掃工場（ごみ処理施設）を見学

レポート

「ごみ」も分別で資源に

松前町区長会 会長 木村 博

近年、各自治体においてごみの分別、再資源化の運動が広がりをみせています。松前町でも可燃ごみの有料化、分別収集が実施されていますが、今回統括広報委員会として、資源循環型社会を推進している先進施設「大分市福宗環境センターリサイクルプラザ」を視察・調査しました。

この施設は、搬入されたごみを、不燃・粗大ごみ、缶・びん・ペットボトル、プラスチック製容器包装別にラインへ送ります。そして、ライン毎に「不燃物、可燃物、アルミ、鉄類」へ、また次のラインでは手分け作業で「ペットボトル圧縮包装、びんカレット、缶類圧縮成型貯蔵」へ、最後のラインでは、さらに手分け作業で「プラスチック圧縮包装品」へ送ります。その行程は、安全で効率のよい処理を行うために常に中央制御されています。

併設されているエコプラザでは自転車再生工房、家具再生工房などで、リサイクル体験をしました。

各コーナーを見学しながら、物を大切にしながらごみを減らすとともに、ごみの分別の大切さを学ぶことができました。



遺徳をたたえて

平成 22 年度 義農祭

享保の飢饉の際、自らの命を犠牲にして、後世に麦種を残した義農作兵衛（1688-1732年）をたたえる義農祭が4月23日（金）、義農公園で開かれました。

式典では、白石町長が「物質的には豊かであるが、自己中心的な考えがはびこる今、作兵衛翁の精神を後世に受け継いでいくことが大切だ」と述べた後、参列者が献花を行いました。

式典終了後、特設ステージでは、もちまき、町内の団体による舞踊、カラオケやコーラスのほか、松前小学校児童による義農太鼓の演奏などの演芸大会が行われ、訪れた人を楽しませていました。

また、会場では、町内をはじめ伊予市や砥部町で生産された海産物や野菜などを即売する「ふるさと市」が実施され、大勢の人でにぎわいました。



1 祭壇に献花をする白石町長

2 迫力ある義農太鼓を披露する松前小学校の児童



2



差別のない社会をめざして

明るい人権の町づくり大会

2010 明るい人権の町づくり大会が5月8日（土）、「守ろう人権 なくそう差別」の大会テーマのもと、松前総合文化センターで開催され、約600人が参加しました。

人権啓発劇では、北伊予小学校6年生約70人が、障がいをもつ友達をめぐって、児童や家庭、学校で障がいの正しい理解を深めていく様子を描いた『『本当の仲間』になりたい!』を熱演しました。児童たちは劇を通じて、人間一人一人の違いを理解し、尊重することの大切さを呼びかけました。

記念講演では、テレビドラマプロデューサーで作家の栗原美和子さんが、栗原さん自身が結婚で直面した「部落差別の実態」を赤裸々に語りました。

栗原さんは、夫で猿まわし芸人の村崎太郎さんと夫婦で苦難を乗り越えていく様子を涙ながらに語り、「人がきちんと問題に向き合い、ごく普通に語られるような社会になって欲しい」と参加者に訴えました。



1

1 障がいを持つ男子児童と彼を取り巻くクラスメートや先生、保護者の様子を描いた人権劇。皆で議論し、一つの方向性を導いていく

2 ご自身の体験を涙ながらに語る栗原さんの講演に胸を打たれた



2